

## ひびきはし 響橋が土木学会選奨土木遺産に認定されました

「めがね橋」の通称で親しまれている響橋（鶴見区）が、平成 28 年度の土木学会選奨土木遺産に認定（9 月 20 日）されたのでお知らせいたします。

響橋は幻のオリンピックと呼ばれる第 12 回東京大会マラソンの折返し地点に築造されたため、その存在が重要視され、繊細なデザインをもつアーチ橋として、厳しい時代のなか完成しました。

### 1 響橋の概要

名称：<sup>ひびきはし</sup>響橋

完成年次：1941（昭和 16）年

形式：鉄筋コンクリートアーチ橋 L=48m、アーチ部の高さ約 13m

設計者等：今井兼次氏、内務省横浜土木出張所横浜新京浜国道事務所

施工者：不詳



響橋（写真データを提供できます）



位置図

### 2 歴史的・景観的価値について

1923（大正 12）年の関東大震災の復興後、京浜工業地帯の著しい発展により、第一京浜国道（現国道 15 号）の交通量が激増し限界に達したため、第二京浜国道（現国道 1 号）の建設が 1936（昭和 11）年 10 月に着工され、響橋は当初寺尾橋と呼ばれ、第二京浜国道建設に伴い分断される水道道の陸橋として計画されました。

また、1936（昭和 11）年 7 月に第 12 回オリンピックの 1940（昭和 15）年、東京開催が正式に決定し、オリンピックで想定されるマラソンコースの折り返し地点にある響橋の存在が重要視されました。

その後、1938（昭和 13）年 7 月に日中戦争の拡大に伴って東京オリンピックは返上され、「幻のオリンピック」となりましたが、鋼材等の支給制限や工事関係者の戦地招集の状況の中、響橋の工事は続行され、1941（昭和 16）年 3 月に竣工しました。

このように、響橋は震災復興後の京浜工業地帯の発展や自動車交通の発達による道路網の拡大や都市形成史を物語るうえで重要な遺構であるとともに、幻となった東京オリンピックの証拠となる貴重な遺構といえます。

<裏面あり>

また、構造的には開腹アーチ※<sup>1</sup>で、単一面のヴォールト※<sup>2</sup>面に鉛直材として隔壁を立ち上げ路面を支えており、コンクリートアーチ橋の一典型といえます。

特に意匠面では、モールディング※<sup>3</sup>を施してアーチを強調したアーチリングと、上床版底部に連続するヴォールトが相まって軽快なデザインとなっています。また、隔壁にはスリット※<sup>4</sup>を、アーチの内輪にもリブ※<sup>5</sup>を入れてコンクリートの重量感を軽減し、直線でデザインされた高覧や親柱とともに、全体に軽快かつ陰影に富んだ繊細なデザインを実現しています。このため、切り通しに架かる軽快なアーチ橋として「めがね橋」とも呼ばれ、地域のランドマークとなっています。

【用語説明】

開腹アーチ※<sup>1</sup>

ヴォールト※<sup>2</sup>

モールディング※<sup>3</sup>

スリット※<sup>4</sup>

リブ※<sup>5</sup>

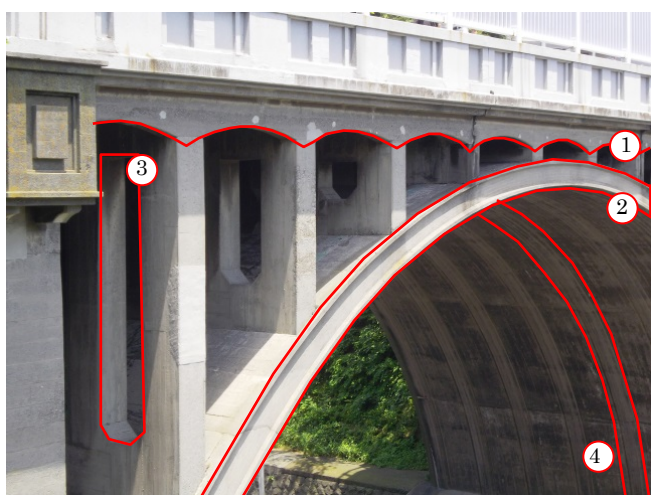
鉛直材の箇所に隙間を空ける形式

かまぼこ型の形状

段差などを施す建築意匠

長い隙間、切れ目

溝を施す建築意匠



- 上床版底部に連続するヴォールト<sup>①</sup>を施して軽快なデザインとなっている。
- モールディングを施してアーチを強調<sup>②</sup>している。
- 隔壁にはスリット<sup>③</sup>、アーチの内輪にもリブを入れて<sup>④</sup>、コンクリートの重量感を軽減している。

### 3 土木学会選奨土木遺産とは

土木遺産の文化的価値を評価するとともに、先人の土木技術者の功績を讃え、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、公益社団法人土木学会が、平成12年度に創設した認定制度で、推薦および一般公募により、全国から年間20件程度が選出されています。

横浜市内では、昨年認定された「元町・山手地区の震災復興施設群」に続き、4件目の認定となります。

### 4 認定式について

認定式を11月開催の予定ですので改めてお知らせいたします。

お問合せ先

道路局橋梁課長 安達 秀昭 Tel 045-671-2752